

(資料 2－1 を元に事務局作成)

アンソニー（トニー）R. ピエトランジェロ 経歴

概要

ピエトランジェロ氏は、原子力エネルギー業界で 37 年以上のキャリアがあり、技術・規制・マネジメントに関する包括的な知識を有している。同氏は、そのキャリアの中で、期待された結果を導くための戦略や政策を計画・遂行する能力、あらゆるレベルでの優れたコミュニケーション能力、官民を問わない幅広い人的ネットワーク、誠実さ・熱意・他者への敬意に裏付けられた強いリーダーシップを示してきた。

経歴

◆原子力産業協会（1989－2017）

○最高原子力責任者（CNO）（2009－2017）

- ・ 商業プラント運転、新プラント開発、核燃料サイクルおよび廃炉活動に関して、技術的・規制的な管理を包括的に行う原子力発電部門（35 人）を率いた。
- ・ 原子力発電運転協会(INPO)と電力研究所 (EPRI)の設立時より、原子力担当役員、サプライヤー幹部、上級管理職で構成されたアドバイザー委員会 (NSIAC) を管理し、原子力規制委員会 (NRC) とともに原子力業界をリードした。
- ・ 福島対応調整委員会 (FRSC) のメンバーとして、2011 年の教訓を踏まえた戦略的な方向性と規制面のインターフェースを提供した。

○上級副社長（SVP）（1989-2009）

- ・ 技術面・規制面での問題を解決する責任が増えていく中で、いくつかの職責を兼務した。
- ・ 変化への対応、リスク管理、NRC への対処についてのルール作りとガイダンスの完成に向けた業界の取組を導いた。
- ・ NRC の監視基準の改正に先立って、リスクインフォームドとパフォーマンスベースでの規制についての概念的枠組を構築し、産業界のホワイトペーパーを作成した。
- ・ プラント審査や稼働中検査などを含む、規制手続きの中で、広範なリスク情報の活用を促進した。
- ・ 事業者が努力をさした結果、NRC は停止／定期検査、データの収集・報告についての最終規則を停止した。

◆Westinghouse 社（1979－1989）

プロジェクトエンジニアとして、ブラジル、韓国、フィリピン、米国の原子力発電所の建設、試験、立ち上げに携わった。それを通じて、原子力工学、業界における基準・運用・保守管理、行政手続についての、重要で「実践的な」知識を身につけた。

学歴

◆Keller 経営学大学院（1997－2000）

経営学修士（MBA）取得

◆コロンビア大学（1975－1979）

工学・応用理学部（生産工学）卒

加盟団体

◆米国原子力学会（ANS）（1989－）

◆原子力発電運転協会（INPO）（2009－2016）

◆北アメリカ原子力青年ネットワーク連絡会（NAYGN）（2011－2016）